



「日本語は難しい」～小1「たぬきの糸車」の授業で思ったこと～

「日本語は難しい」と聞くことがあります。「特に、漢字が・・・」という言葉は、当校舎内でもよく耳にします。

昨年度、小学1年生に「たぬきの糸車」という物語の授業をさせていただきました。その時になるほど難しいと思ったことを紹介します。

■語彙の不足 (⇔文化や経験の違い)

この物語の題名の中に「糸車」という言葉があります。これは単純に、知っているか否かの問題ともいえますが、糸車は古い道具でもあり、ほとんどの子どもは知りませんでした。“言葉の背景には文化がある”といわれますが、この言葉を広くとらえれば、日本にしかない独自の物事や文化、経験も含まれます。「糸車」と似たような例では、小5の物語「あめ玉」には「さむらい」が登場します。小3には「田んぼ」が出てきますが、知らない見たことがない子どもは意外と多いのではないかと思います。



〈ある日の授業から(小1教室)〉

■同一語句・複数語句 (⇔言葉のニュアンス理解不足)

物語に「おかみさん」が登場します。英語でいえば「mother」(または「wife」)でしょうか。小4の有名な「ごんぎつね」には「おっかあ」という言葉がでてきます。これは明らかに「mother」です。英語では「mother」一言で済みますが、日本語ではこのように複数の言い方があり、しかもそれぞれにニュアンスが異なります(だから、「おかみさん」を「madam」と訳すのには、この物語では違和感があります)。複数の言い方でもっとも身近な例は「I」と「you」でしょう。「I」は、日本語では、「私」「我」「ぼく」「おれ」「あたし」「拙者」「小生」さらには「吾輩」や「自分」であったりします。「you」はさらに多いのではないのでしょうか。これはまさに日本語そのものの難しさだと思います。

■「て、に、を、は」が正しく使えない (⇔ご家庭でも日本語使用を)

ある質問を投げ掛けた時に、自信なさそうに手を挙げようかためらっている子どもがいました。指名すると、「たぬきがおかみさんをありがとうと言いました。」と発言しました。単純に『に』と言うべきところを、「を」と言ったのでした。その子どもは、自分の考えをしっかりとっているのです。しかし、言い方に自信がもてずにいたのでした。「て、に、を、は」に似たような語句として、英語では「at, in, of, on, for, into」などの前置詞がありますが、使い方からいって別物です。「て、に、を、は」の使い方は小学1年生で学習します。しかし、上の例のように、一回の授業で使えるようになるのは難しい子どもがいます。言葉の定着は、何度も使うことにより図ることができます。ご家庭でも、ぜひ日本語を使っていただきたいと、改めて思いました。

小学1年生では、これらのほかに数詞(数の数え方の種類)が大変多かったりするなどの難しさもあります。ほかの学年も含め、漢字にいたってはさらに多くの難しさがあります。

このような難しさは、機会をみて、また紹介をしていきたいと思っています。